

# 2018 年度 日本文化人類学会総会 議事録

日時：2018年6月3日（日）12:30～14:15

会場：弘前大学 総合教育棟 401 講義室

議長：後藤明 議事録確認者：市野澤潤平、南出和余

## 〔議題〕

1. 2017 年度事業報告
  - ・川田牧人第 27 期庶務担当理事より別紙の通り報告があり、承認された。
2. 2017 年度会計報告
  - ・綾部真雄第 27 期会計担当理事より別紙の通り報告があり、承認された。
3. 第 28 回評議員選挙報告
  - ・西井凉子第 28 回選挙管理委員長より別紙の通り報告があり、承認された。
4. 第 28 期会長推薦
  - ・第 28 期評議員による会長候補者選挙の結果を受けて、松田素二第 27 期会長代理の棚橋訓第 27 期総務理事が清水展会員を新会長に推薦し、満場一致により同氏が第 28 期会長に選任された。
5. 2018 年度事業計画
  - ・木村周平庶務担当理事より、別紙に基づき説明があり、委員会構成と併せて承認された。
  - ・会員名簿の刊行について、今年は 2 年に 1 度の刊行年にあたるが、個人情報管理、予算削減、法人化にともなう事務処理増への対応のため、2018 年度は刊行せず、会員名簿のあり方について今後検討を行うこととした。
6. 2018 年度予算（案）
  - ・石田慎一郎会計担当理事より別紙に基づき説明があり、承認された。
  - ・将来計画基金への組み入れについては、今後事業計画への記載を検討することとした。
  - ・法人化するにあたり、事務局室賃借契約について所有者である神奈川大学に確認を行うこととした。
7. 第 28 期監事推薦
  - ・評議員会の提案を受け、鈴木正崇、関根康正の両氏が第 28 期監事に選任された。
8. 名誉会員候補者の推薦について
  - ・評議員会の提案を受け、名誉会員内規第二章第二条に基づき内堀基光会員と小松和彦会員を名誉会員として推戴することが承認された。
  - ・名誉会員内規第二章第二条第二項による名誉会員候補者として評議員会の提案を受け、審議の結果、清水昭俊会員を名誉会員として推戴することが承認された。
9. 学会の法人化について
  - ・清水展会長より、これまでの経緯について説明があり、法人化対応委員会委員長の棚橋訓理事より、2017 年度総会で定款の骨子が承認されたことを受けて、定款の最終案が提示され、微細な文言の変更はあるものの、骨子においては変更がないこと、法人化後の変更点については、①総会は社員総会となること、②総会における事業計画及び予算の承認は必要が無くなるが、事業報告及び決算の重要性が高まること、③法人としての納税義務が生じること、の 3 点が説明された。
  - ・棚橋訓理事より、法人化決議事項について説明があり、審議の結果、下記 7 点が承認された。
    - (1) 任意団体・日本文化人類学会（以下、任意団体）を解散すること。

- (2) 任意団体の解散の年月日時については、任意団体から一般社団法人日本文化人類学会（以下、法人）への財産の移行などの事業移転の完了時期が具体的に把握できる段階に至ったところで、理事会の審議を経て決定（一任）し、会員に周知すること。
  - (3) 任意団体第 28 期の会長、理事、評議員、監事を、それぞれ法人の設立時代表理事、設立時理事、設立時社員、設立時監事とすること。
  - (4) 設立時代表理事が選任された今総会終了後、すみやかに法人の設立登記の手続きに入ること。
  - (5) 任意団体の会員が、すべて法人の会員となること。この扱いに異議があり、法人への加入を行わない会員は 6 月末日までに申し出ること（詳細は、総会終了後に JASCA-INFO で配信）。
  - (6) 任意団体の会員として 2018 年度会費を支払った会員は、法人会員になった時に 2018 年度会費は免除されること。未払いの場合は、法人に 2018 年度会費を支払うこと。任意団体の下の未払い・既払いの会費債権は法人が引き継ぐこと。
  - (7) 現在の任意団体の事業、財産、債権は全て法人が引き継ぐこと。
- ・法人化決議事項については、学会ホームページ、会員メーリングリスト（JASCA-INFO）、文書等による会員への周知を徹底すること、事務局室賃借契約について所有者の神奈川大学に確認を行うこと、必要に応じて会員向けに JASCA-INFO 等を通じて法人化に関する通知を随時行うことが確認された。

#### 10. その他

- ・学会の連携・協力機関である国立民族学博物館について、飯田卓会員（国立民族学博物館）より、①大学生・教員に展示場などを活用してもらえる「みんなく活用」を行っていること、②若手研究者奨励セミナーの公募を行っていること、③総合研究大学院大学に参加しており、国立民族学博物館で博士課程の学生として学ぶことができること、他にも様々な催しを行っていることが報告された。
- ・日本学術会議会員の高倉浩樹会員（東北大）より、下記 2 点について報告があった。
  - ① 本学術会議の総合ジェンダー分科会の中に設置された、人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）が活動を開始しており、本学会からは中谷文美理事が出席していることが報告され、連絡会の最初の事業として予定されている会員向けアンケートへの協力依頼がなされた。
  - ② 人類学会世界協議会（WCAA）で開設している多言語ブログについて、昨年度は本学会が担当したこと、各国から高評価を受けたことが報告された。
- ・『文化人類学』編集主任の綾部真雄理事より、前期理事会において査読規定の改革が行われたことが説明され、積極的な論文投稿の呼びかけが行われた。

以上